

相手に伝わるということ

ある合宿での、部屋割りの連絡をしていた時のことです。

1号室 山田さん, 小林さん, 鈴木さん

2号室 林さん, 山本さん, 武田さん

3号室 山口さん, 高橋さん, 加藤さん

4号室 佐藤さん, 根本さん, 近藤さん……

と係の人が読み上げました。

ところが、宿泊者たちは口々に「私は何号室なの?」と聞き返しました。うまく伝わらなかったようです。

そこで、係の人は、もう一度、〇号室は何何さん…と繰り返しました。でも、またまた、宿泊者は自分が何号室かよくわからなかったようです。どこが問題だと思いますか。

山田さん, 小林さん, 鈴木さんは1号室…と言えばよかったのです。宿泊者は「自分は何号室か」を聞きたかったのですから。

〈聞く人が何を聞きたいか〉に思いが及んでいないと、話をしてもなかなか相手には伝わりません。「ころづかい」は「心使い」ではなく、「心遣い」と書きます。相手の心の中に自分の心を遣わせて、相手の求めていることは何かを汲み取り、それに沿った対応を取ると、自分の話を相手に聞いてもらえて、わかってもらえるし、自分の行為を相手に喜んで受け止めてもらい易くなるのですね。

仮説実験授業全国大会で宿泊担当が板倉さんに言われて驚き、そのことをまとめたレポートより